

**株主メモ**

事業年度 4月1日から翌3月31日まで  
 定時株主総会 6月  
 定時株主総会議決権基準日 3月31日  
 期末配当金支払株主確定日 3月31日  
 中間配当金支払株主確定日 9月30日  
 上場証券取引所 東京・大阪  
 公告方法 当社公告につきましては、下記ホームページに掲載いたします。  
<http://www.nichirei.co.jp/>  
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に公告を掲載いたします。

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

〔郵便物送付先〕 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号  
 〔電話お問合せ先〕 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
 ☎(03)5213-5213(代表) ☎0120-288-324

同取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

**ご案内**

1. 住所、氏名、配当金の振込先等の変更および単元未満株式の買取り、買増しにつきましては、株主名簿管理人へお問合せのうえ、お手続きください。
2. 配当金を郵便貯金口座へお振り込みすることができます。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので、株主名簿管理人に指定用紙をご請求ください。

# HOPPE

ほっぺ

第89期中間 グループ報告書  
 2006年4月1日～2006年9月30日

Vol.17



© 2007 Steven Klein Licensed by Creatif Licensing through Mega Press Japan



この報告書は、環境に優しい大豆油インキを使用して印刷しています。

# 「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。

ニチレイは、品質へのあくなきこだわりと、培われた技術、新しいアイデア、グループトータルのネットワークによって、新鮮で、健康なおいしさをお届けし、笑顔のあふれる食卓を創り出していきます。

## Contents

株主の皆様へ	2
中間決算ハイライト	3
中間連結決算概要	4
中間単独決算概要	8
FOCUS	9
KEY WORD	11
INTRODUCTION	12
株式の状況	13
会社概要	14

## PROFILE 表紙絵の画家プロフィール

Steven Klein

鮮やかな色彩とシンプルな構図、ディテールを特徴とするナイーブアーティストSteven Klein(スティーヴン クレイン)氏の作品です。昔の農場やビクトリア風公園、現代の海岸などの風景を描写。作品はアメリカでジグソーパズル、カードなどに商品化されています。



## 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。第89期中間グループ報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

当中間期の連結業績につきましては、食品関連業界において厳しい事業環境が続くなか、売上高は前年同期を下回りましたが、営業利益は増益計上することができました。中間純利益は特別損益の改善により前年同期比127.3%の増益となりました。

今後は、企業収益の改善や設備投資の増加など緩やかな景気拡大が見込まれるものの、食品業界においては引き続き不安定な事業環境が予想されます。

ニチレイグループは、激変する経営環境のなかでも自己変革を続け、常に成長していく企業集団の実現をめざして「グループ中期経営計画(2004年度~2006年度)」の最終年度となる当事業年度は、次期中期経営計画に繋げる重要な1年と認識し、2006年度通期目標の達成に向け各事業での戦略展開を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2006年12月

## グループミッション・ビジョン

### ミッション【使命・存在意義】

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する。

### ビジョン【めざす姿】

ニチレイグループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」として、お客様にご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。



代表取締役会長 大戸武元 代表取締役社長 浦聖光人

● 連結



(注) 1. 2002年度～2005年度における「純資産」には、会計基準の変更に伴う少数株主持分は含まれていません。  
 2. 連結通期予想(2006年10月31日公表)は、公表時点における情報に基づき判断されたものです。実際の業績につきましては、経営環境の変化等により記載した予想とは異なる結果になる可能性があります。

● 単独

※中間配当金は1株につき3円とし、2006年12月5日を支払開始日とさせていただきます。



(注) 1. 2005年4月1日付で持株会社体制へ移行したことにより、2005年度中間期から当社の単独決算数値は持株会社としての実績値となっております。  
 2. 単独通期予想(2006年10月31日公表)は、公表時点における情報に基づき判断されたものです。実際の業績につきましては、経営環境の変化等により記載した予想とは異なる結果になる可能性があります。

当中間期は、低温物流事業の物流ネットワーク事業や加工食品事業の業務用チキン加工品が伸長しましたが、水産事業の再生プランによる取扱い商材の絞込みが大きく影響したことから、売上高は2,301億88百万円を計上し、前年同期比2.3%の減収となりました。

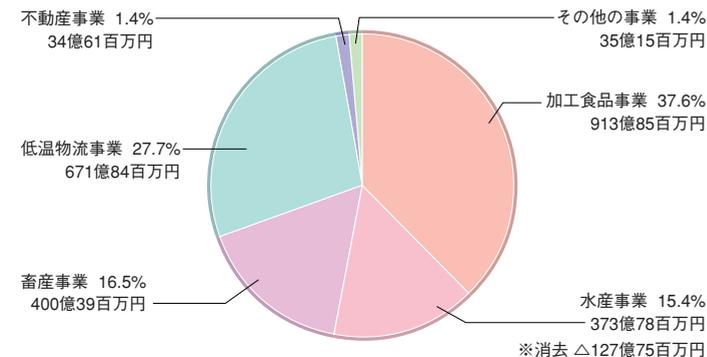
利益面では、不動産事業は減益となりましたが、低温物流事業の増収や販売費及び一般管理費の削減により、営業利益は83億11百万円を計上しました。また水産事業は固定費の削減により収益が改善しています。

有利子負債の削減は計画どおり進んだことから営業外損益が2億78百万円のマイナスとなり、経常利益は80億33百万円を計上することができ、前年同期比4.8%の増益となりました。

特別損益につきましては、持分法適用関連会社株式の一部売却により関係会社株式売却益29億87百万円などの特別利益を計上する一方、固定資産の減損損失や低温物流事業の事業所閉鎖損失など特別損失11億9百万円を計上し、その結果として26億60百万円を計上しました。

特別損益、税金費用ならびに少数株主損失を加減算した中間純利益は61億17百万円となりました。

セグメント別売上高構成比



セグメント情報

当中間期 2006年4月1日から2006年9月30日まで (単位: 百万円)

	売上高	営業費用	営業利益
加工食品事業	91,385	88,248	3,137
水産事業	37,378	37,612	△ 234
畜産事業	40,039	39,790	248
低温物流事業	67,184	63,705	3,479
不動産事業	3,461	1,661	1,799
その他の事業	3,515	3,512	2
計	242,964	234,531	8,432
消去または全社	(12,775)	(12,654)	(120)
連 結	230,188	221,876	8,311

前中間期 2005年4月1日から2005年9月30日まで (単位: 百万円)

	売上高	営業費用	営業利益
加工食品事業	93,313	90,303	3,009
水産事業	42,695	43,430	△ 734
畜産事業	41,754	41,601	152
低温物流事業	63,139	59,953	3,185
不動産事業	3,987	1,678	2,309
その他の事業	4,493	4,452	41
計	249,384	241,420	7,964
消去または全社	(13,879)	(13,699)	(179)
連 結	235,505	227,720	7,784

## 中間連結決算概要

(注)1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。  
2. ポイントにおける記載金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

### 中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

区 分	当中間期	前 期
	2006年9月30日現在	2006年3月31日現在
流動資産	116,801	108,185
固定資産	154,733	160,316
有形固定資産	106,364	108,041
無形固定資産	3,534	3,718
投資その他の資産	44,834	48,555
資産合計	271,534	268,501
流動負債	95,849	83,064
固定負債	69,923	82,181
負債合計	165,772	165,246
少数株主持分	—	630
資本金	—	30,307
資本剰余金	—	23,706
利益剰余金	—	39,627
その他有価証券評価差額金	—	8,353
為替換算調整勘定	—	890
自己株式	—	△ 261
資本合計	—	102,624
負債、少数株主持分及び資本合計	—	268,501
株主資本	96,779	—
資本金	30,307	—
資本剰余金	23,707	—
利益剰余金	43,050	—
自己株式	△ 285	—
評価・換算差額等	8,396	—
少数株主持分	584	—
純資産合計	105,761	—
負債・純資産合計	271,534	—

(注)1. 有形固定資産の減価償却累計額 173,992百万円  
2. 保証債務 2,955百万円

#### ●連結貸借対照表について

当中間期から「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 2005年12月9日 企業会計基準第5号)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準委員会 2005年12月9日 企業会計基準適用指針第8号)を適用しています。「単独貸借対照表」に関しても同様です。

### 貸借対照表のポイント

(括弧内は前期末比の増減)

**流動資産 1,168億円** (86億円の増加)

- 受取手形及び売掛金: 761億円 (118億円の増加)
  - ・期間売上高の増加や中間期末日が金融機関の休業日であったことにより増加
- その他の流動資産: 38億円 (28億円の減少)
  - ・固定資産売却代金の入金などにより未収入金が31億円減少

**固定資産 1,547億円** (55億円の減少)

- 有形固定資産: 1,063億円 (16億円の減少)
  - ・設備投資により26億円増加
  - ・減価償却などにより46億円減少
- 投資有価証券: 302億円 (43億円の減少)
  - ・関係会社株式の売却や時価評価額の減少

**流動負債 958億円** (127億円の増加)

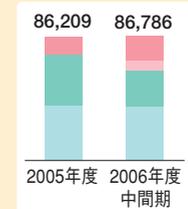
- 支払手形及び買掛金: 278億円 (18億円の増加)
- 短期借入金: 173億円 (43億円の増加)
- コマーシャルペーパー: 70億円 (70億円の増加)

**固定負債 699億円** (122億円の減少)

- 社債: 150億円 (100億円の減少)
  - ・第17回無担保社債(償還期限2007年8月16日) 100億円を社債(1年以内償還)へ振替
- 長期借入金: 347億円 (17億円の減少)
  - ・長期借入金(1年以内返済)への振替などによる

### 有利子負債の状況 (単位:百万円)

	2005年度	2006年度中間期
短期借入金	13,001	17,328
コマーシャルペーパー	—	7,000
社債	35,000	25,000
長期借入金	38,208	37,458



### 中間連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

区 分	当中間期	前中間期
	2006年4月1日から2006年9月30日まで	2005年4月1日から2005年9月30日まで
売上高	230,188	235,505
売上原価	185,390	189,225
売上総利益	44,797	46,279
販売費及び一般管理費	36,486	38,494
営業利益	8,311	7,784
営業外収益	1,371	1,267
営業外費用	1,649	1,390
経常利益	8,033	7,661
特別利益	3,770	1,199
特別損失	1,109	3,986
税金等調整前中間純利益	10,693	4,874
法人税、住民税及び事業税	2,298	2,469
法人税等調整額	2,281	△ 326
少数株主利益	—	40
少数株主損失	3	—
中間純利益	6,117	2,691

### 有利子負債のポイント

季節的要因による運転資金の増加などにより有利子負債は5億円増加しました。  
金融収支については、本年5月に社債を償還し、前中間期に比べ有利子負債が減少したことなどにより1億円改善しました。  
なお、成長戦略の一環として設備投資は増加するものの、使用資本の効率化に努めて営業活動によるキャッシュ・フローを確保し、2007年3月期末の有利子負債残高は750億円以下を目標としています。

## POINT

### 損益計算書のポイント

(括弧内は前年同期比の増減)

**売上高 2,301億円** (53億円の減収)



- 低温物流事業は物流ネットワーク事業が前年度に稼働した物流センターの貢献などにより増収
- 加工食品事業は業務用のチキン加工品が増収
- 水産事業は取扱い商材の見直しにより一部魚種の調達を絞り込んだことから減収

**営業利益 83億円** (5億円の増益)



- 低温物流事業は物流ネットワーク事業、地域保管事業が順調に推移
- 水産事業は固定費の削減などにより収益が改善
- 販売費: 219億円 (12億円の減少)
  - ・販売促進費は効率的な使用により9億円減少

**経常利益 80億円** (3億円の増益)



- 営業外損益 △2億円
- ・金融収支 △3億円
- 有利子負債の削減などにより前中間期に比べ1億円改善
- ・持分法投資利益 6億円

**中間純利益 61億円** (34億円の増益)



- 特別利益 37億円
  - ・(株)アールワイフードサービス株式の一部売却により、関係会社株式売却益29億円を計上
- 特別損失 11億円
  - ・北海道、関西、九州地区における3物流センターの閉鎖決定などにより、固定資産の減損損失3億円、事業所閉鎖損失4億円を計上

## 中間連結決算概要

(注)1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。  
2. ポイントにおける記載金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

### 中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

区 分	当中間期	前中間期
	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2005年4月1日から 2005年9月30日まで
●営業活動によるキャッシュ・フロー	1,052	6,937
●投資活動によるキャッシュ・フロー	1,818	△ 208
●財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,469	△6,790
現金及び現金同等物に係る換算差額	51	75
現金及び現金同等物の増加額	1,453	13
現金及び現金同等物の期首残高	3,290	3,087
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,743	3,100

### キャッシュ・フロー計算書のポイント

(括弧内は前年同期比の増減)

**営業活動によるキャッシュ・フロー 10億円の収入 (58億円の減少)**

- 税金等調整前中間純利益は106億円を計上。うち非資金費用の減価償却費は44億円
- 法人税等の支払いで35億円の支出
- 営業資金(売上債権、たな卸資産、仕入債務)は98億円の支出

**投資活動によるキャッシュ・フロー 18億円の収入 (20億円の増加)**

- 投資有価証券の売却により48億円の収入
- 設備投資の増加などにより有形固定資産関連は34億円の支出

**財務活動によるキャッシュ・フロー 14億円の支出 (53億円の減少)**

- 季節的要因による運転資金の増加や配当金の支払いなどにより14億円の支出

以上により、当中間期末の現金及び現金同等物の残高は、47億円となりました。

### 中間連結株主資本等変動計算書 (2006年4月1日から2006年9月30日まで) (単位:百万円)

区 分	株主資本				評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定			評価・換算差額等合計
2006年3月31日残高	30,307	23,706	39,627	△ 261	93,380	8,353	—	890	9,243	630	103,255
中間連結会計期間中の変動額											
利益処分による剰余金の配当			△ 1,861		△ 1,861						△ 1,861
利益処分による役員賞与			△ 124		△ 124						△ 124
中間純利益			6,117		6,117						6,117
持分法適用会社の減少による減少額			△ 708		△ 708						△ 708
自己株式の取得				△ 25	△ 25						△ 25
自己株式の処分		0		1	1						1
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△ 1,467	315	304	△ 847	△ 45	△ 892
中間連結会計期間中の変動額合計	—	0	3,422	△ 23	3,399	△ 1,467	315	304	△ 847	△ 45	2,506
2006年9月30日残高	30,307	23,707	43,050	△ 285	96,779	6,886	315	1,194	8,396	584	105,761

#### ●連結株主資本等変動計算書について

新設された「連結株主資本等変動計算書」は、貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆様に帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額を連結ベースでご報告するために作成する計算書類です。「単独株主資本等変動計算書」も同様です。

## 中間単独決算概要

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

### 中間単独貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

区 分	当中間期	前 期
	2006年9月30日現在	2006年3月31日現在
流動資産	44,507	35,734
固定資産	142,208	149,083
資産合計	186,715	184,818
流動負債	39,092	27,394
固定負債	61,088	71,971
負債合計	100,180	99,366
資本剰余金	—	30,307
利益剰余金	—	23,706
その他有価証券評価差額金	—	25,287
自己株式	—	6,364
資本金合計	—	△ 214
負債・資本合計	—	85,452
株主資本	81,179	—
資本剰余金	30,307	—
利益剰余金	23,707	—
自己株式	27,402	—
評価・換算差額等	△ 237	—
純資産合計	5,356	—
負債・純資産合計	86,535	—
負債・純資産合計	186,715	—

(注)1. 有形固定資産の減価償却累計額 17,278百万円  
2. 保証債務 15,801百万円

### 中間単独損益計算書(要旨) (単位:百万円)

区 分	当中間期	前中間期
	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2005年4月1日から 2005年9月30日まで
営業収益	5,908	6,969
営業費用	3,989	4,404
営業利益	1,918	2,564
営業外収益	1,249	894
営業外費用	527	547
経常利益	2,640	2,911
特別利益	4,092	1,145
特別損失	226	3,816
税引前中間純利益	6,506	240
法人税、住民税及び事業税	406	187
法人税等調整額	2,087	△ 335
中間純利益	4,011	387
前期繰越利益	—	2,083
中間未処分利益	—	2,471

#### ●単独損益計算書について

期中における剰余金の変動は、当中間期から新設された「株主資本等変動計算書」で表わされるため、「未処分利益」の計算区分が廃止されました。

### 中間単独株主資本等変動計算書 (2006年4月1日から2006年9月30日まで) (単位:百万円)

区 分	株主資本									評価・換算差額等	純資産合計				
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計			その他有価証券評価差額金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金							利益剰余金合計		
2006年3月31日残高	30,307	7,604	16,101	23,706	39	3	3,084	18,410	3,750	25,287	△ 214	79,087	6,364	6,364	85,452
中間会計期間中の変動額															
利益処分による特別償却準備金の取崩						△ 3				3	—	—	—	—	—
利益処分による固定資産圧縮積立金の取崩							△ 2,320		2,320	—	—	—	—	—	—
利益処分による別途積立金の積立								2,100	△ 2,100	—	—	—	—	—	—
利益処分による剰余金の配当									△ 1,861	△ 1,861	△ 1,861	△ 1,861	—	—	△ 1,861
利益処分による役員賞与									△ 35	△ 35	△ 35	△ 35	—	—	△ 35
中間純利益									4,011	4,011	4,011	4,011	—	—	4,011
自己株式の取得											△ 25	△ 25	—	—	△ 25
自己株式の処分						0	0				1	1	—	—	1
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)													△ 1,008	△ 1,008	△ 1,008
中間会計期間中の変動額合計	—	—	0	0	—	△ 3	△ 2,320	2,100	2,338	2,114	△ 23	2,091	△ 1,008	△ 1,008	1,083
2006年9月30日残高	30,307	7,604	16,102	23,707	39	—	763	20,510	6,089	27,402	△ 237	81,179	5,356	5,356	86,535

# FOCUS

## ニチレイグループ 環境に配慮した商品・サービスのご紹介

ニチレイグループの事業会社は、お客様に提供する商品やサービスに応じた環境配慮に努めています。



### ニチレイフレッシュ FA\*シュリンプの養殖

サウジアラビアのビジネスパートナーとともに、親えびの養殖から手がけ、稚えびのふ化・育成、養殖、加工、そして飼料生産までの一貫管理体制を構築しました。また1区画当たりの養殖尾数を少なくすることでストレスを軽減し、のびのびとした環境のもと「FAシュリンプ」を生産しています。養殖池で使用した水は、浄化して海へ戻しています。

※FA (Free from Antibiotics)

全育成過程を通じて、抗生物質・合成抗菌剤を投与せず飼育・養殖すること。食品の安全性はもとより土壌への影響も低減でき、これまでニチレイフレッシュでは「チキン」で取り組んできました。



1区画10haという広大な養殖池で低密度の養殖を行っています。健康なえびを育てることを第一としています。生産施設は紅海と砂漠地帯の地形を利用し、自然を破壊することなく作られています。



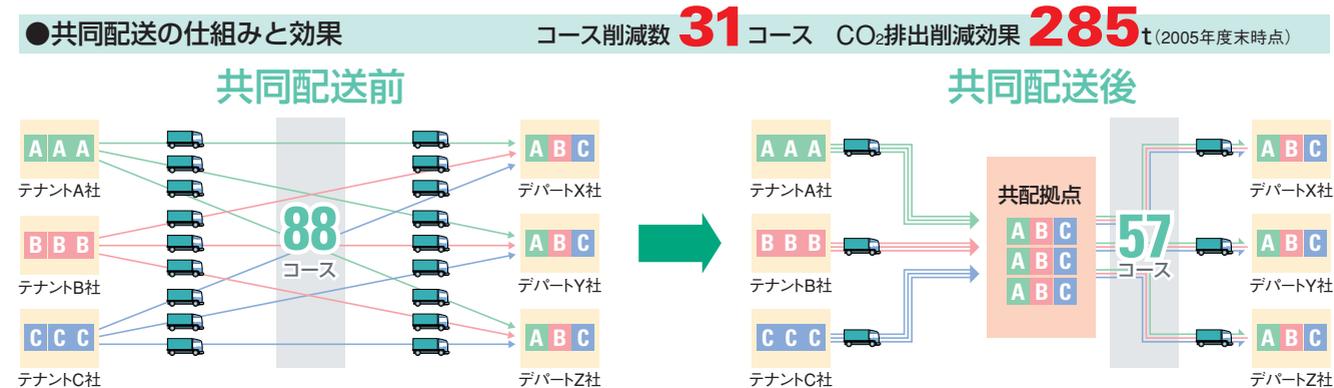
アラビア半島に面した紅海は塩分濃度が高く(4%前後)、身が締まり旨味の強いえびになります。池揚げ後の急速凍結で鮮度も抜群です。

### ニチレイロジグループ 共同配送の仕組み作りを推進

デパートの地下食料品売り場への納品は、これまでテナントごとに行っていました。当社は複数テナントの

納品を一括して行う共同配送サービスにより、納品車両数を大幅に減らすことを実現しました。この物流効率の向上は、周辺の渋滞解消やCO<sub>2</sub>排出削減に寄与しました。

2006年9月末時点で、百貨店内店舗272店、荷主16社が参加しています。



### ニチレイフーズ パッケージへの環境配慮

●プラスチックトレイを抜きました



本格中華あんかけと今川焼の2品で、プラスチック使用量90t/年を削減

商品の保護として使用していたプラスチックトレイを見直し、品質上の問題がないことを十分確認した商品について、プラスチックトレイを廃止しました。これにより包装全体もコンパクトになりました。

●アルミ蒸着フィルムをやめました  
光を通さないアルミ蒸着フィルムで包装した商品についても、品質上の問題がないことを十分確認した上で、一部アルミ蒸着フィルムからプラスチック単体フィルムに切り替えを進めています。これによりリサイクルが容易になりました。



ニチレイグループWebサイトに『ニチレイグループ社会環境報告書 2006』を掲載しています。是非、ご覧ください。  
<http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/index.html>

# Key Word

ニチレイグループならではの企業活動やトピックスなどをキーワードによりご紹介します。

## 健康価値創造事業

2006年4月に設立された(株)ニチレイフーズ健康価値事業部は、ニチレイグループが誇る2つの健康価値を生活者に提案しています。1つは発売20周年を迎えたアセロラドリンク事業、もう1つは栄養バランスよく、カロリーがコントロールされた成分保証技術を活用したウェルネス食品事業です。今後も新たな施策を推進していきます。

### ●世界に広がるアセロラ事業

ニチレイブラジル農産(有)((株)ニチレイフーズ子会社)のアセロラ果汁製造工場に新たに果汁濃縮設備を導入し、アセロラ事業の世界戦略を推進しています。ブラジルでは、すでにアセロラ冷凍果汁をスーパーマーケットなどで販売しています。

また、欧米には濃縮果汁を輸出し、特にドイツの大手飲料メーカーを中心にナチュラルフルーツジュースの中の天然ビタミンC源としてニチレイブラジル農産のアセロラ果汁が使用されています。世界マーケットでもNO. 1であるニチレイグループのアセロラビジネスをさらに拡大していきます。



ブラジルの冷凍食品売場で販売されているアセロラ果汁

### ●成分保証技術を活用。生活者にダイレクトで販売

本年4月に設立された通信販売会社(株)ニチレイフーズダイレクトが本格的な営業活動を展開しています。2004年に発売された冷凍バランス食「気くぱり御膳」シリーズを中心に、シェフと管理栄養士の監修を受けた「シェフズバランス」シリーズのアイテムを毎月充実させており、発売から18年目を迎えた「糖尿病食」シリーズも長年の信頼のもとに認知度が上がっています。今秋には腎臓病の方を対象に「たんぱくナビ」シリーズも新発売しました。

生活習慣病予防に関わる取組みとして、メタボリックシンドローム対策を推進していきます。



ニチレイフーズダイレクトの通信販売季刊誌「きくぱり」

# Introduction



ご好評の商品をご紹介します。

おうちおかず  
ハンバーグ

家庭用



電子レンジでできたてのおいしさが楽しめるおかずシリーズ。ハンバーグは牛肉と豚肉の配合や焼き方にこだわり、ふっくら、ジューシーなおいしさ。ソースをかけたり、パンに挟んだりアレンジ自由自在です。  
※シリーズ品として、牛肉コロッケを発売

お弁当にGood!  
BIG! チキンカツ

家庭用



食べ盛りの中高生や働き盛りのお父さんも嬉しいボリューム感のあるチキンカツです。やわらかくジューシーなお肉の旨味をひき立てるフルーティでコクのあるソース。ごはんが進むおいしさです。着色料・保存料・化学調味料を使用しておりません。

アセロラローヤルゼリーC

家庭用



1本にアセロラ果実由来の天然ビタミンC 150mgとローヤルゼリー500mg、アセロラポリフェノールが入った小瓶飲料です。アセロラビタミンCと合わせて日頃の美容と健康維持にお役立てください。

特撰Deli  
かぼちゃポタージュコロッケ

業務用



女性に人気のかぼちゃポタージュをクリーミーなコロッケにしました。蔵王高原の牛乳を使用し、とろ〜りとした口溶けのよさが魅力です。明るい揚げ色の衣と軽い食感を実現しました。

揚げだし五目豆腐

業務用



大豆の旨味がつまった生地に、彩りのよい5種の具材(玉ねぎ、にんじん、くわい、きくらげ、ひじき)を入れた、ふんわりおいしい揚げだし豆腐です。素材の味を引き立てる利尻産昆布と枕崎産かつお節でだしをとったつゆをかけてお召上がりください。

レストランユース  
こんぶごはん 五穀入り

業務用



細切り昆布と大豆、いんげん豆を加えたふっくらおいしい和風ごはんです。白米の他に五穀(発芽玄米、大麦、あわ、ひえ、きび)を加え、昆布の風味を活かして薄味に仕上げました。

家庭用 商品のお問合せ先：お客様相談センター ☎0120-69-2101【受付時間：9:00～17:00(土、日、祝日を除く)】

## 株式の状況

(2006年9月30日現在)

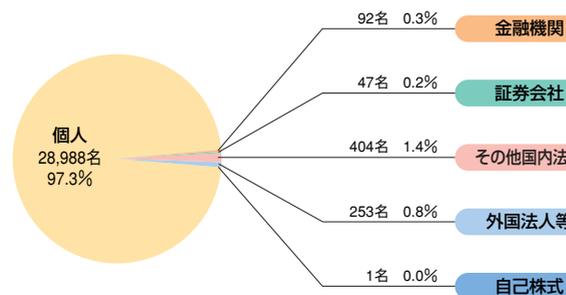
発行可能株式総数	720,000,000株
発行済株式総数	310,851,065株
単元株式数	1,000株
株主数	29,785名

### ●大株主

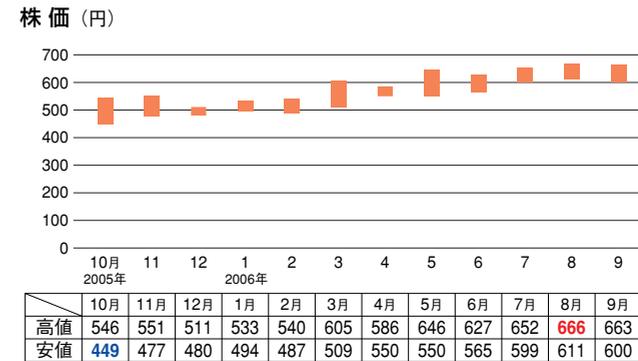
株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	22,937	7.4
日本生命保険相互会社	16,785	5.4
株式会社三菱東京UFJ銀行	13,903	4.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,858	3.8
株式会社損害保険ジャパン	11,059	3.6
みずほ信託退職給付信託 みずほコーポレート銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託	8,056	2.6
株式会社みずほコーポレート銀行	7,314	2.4
第一生命保険相互会社	5,716	1.9
みずほ信託退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託	5,598	1.8
農林中央金庫	5,350	1.7

(注)持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。

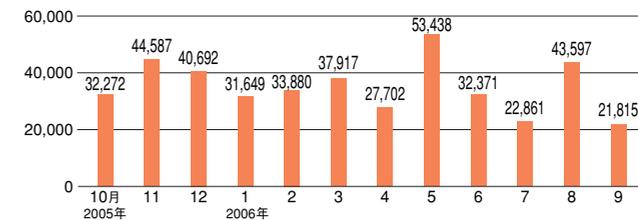
### ●所有者別株主数分布状況



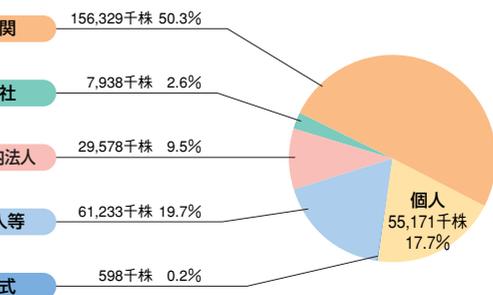
### ●株価チャート



### ●出来高(千株・月間合計)



### ●所有者別株式数分布状況



## 会社概要

(2006年9月30日現在)

社名 株式会社ニチレイ

所在地 〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号  
ニチレイ東銀座ビル

設立 1942年12月

従業員数 78名 (参考) ニチレイグループ 5,777名

役員	代表取締役 会長	大戸 武元
	代表取締役 社長	浦野 光人
	取締役 常務執行役員	荒 昌裕
	取締役 常務執行役員	相馬 義比古
	取締役 執行役員	長谷川 寿
	取締役 執行役員	村井 利彰
	取締役 執行役員	三田 勇太郎
	社外取締役	廣瀬 光雄
	社外取締役	炭谷 俊樹
	社外取締役	川俣 美由里
	監査役(常勤)	井上 康之
	監査役(非常勤)	永塚 一昭
	社外監査役(非常勤)	河上 和雄
	社外監査役(非常勤)	佐藤 正昭
	執行役員	山本 宏樹

会計監査人 新日本監査法人  
東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル



(株)ニチレイ本社ビル

<http://www.nichirei.co.jp/>

情報満載のホームページ

事業紹介や投資家向け情報はもちろん、皆様のお役に立つ商品・サービス情報を掲載しています。

